

第6学年 理科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「私の研究」 教材名「私の研究」

2 単元の目標

既習の燃焼前後の空気や動植物の体の働きなどを手掛かりに、問いと方法と記録が対応した研究計画を立てられる。「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」を追究し、自分の記録や計画を見直しながら取り組む。(第3の2(1))

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①既習の燃焼前後の空気や動植物の体の働きなどを手掛かりに、問いと方法と記録が対応した研究計画を立てている。 ②実物の観察・実験と記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①自分の疑問と調べる方法、記録する内容を対応させ、安全性と確かめやすさを理由に計画を見直している。	①私の研究の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「私の研究」は、第6学年の第3の2(1)を手掛かりに、自然の事物・現象を調べる単元である。中心となる理解は、既習の燃焼前後の空気や動植物の体の働きなどを手掛かりに、問いと方法と記録が対応した研究計画を立てられることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、既習の記録から疑問を選ぶところから始め、計画を点検して修正する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には計画を点検して修正することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」を中心の問いに据える。この時間に扱う共通の資料や記録を使って、次の活動を行う。既習の記録から疑問を選び、複数の結果に合う説明を使って確かめる方法を紙に書く。使う道具・観察場所・記録することを対応させ、教師が安全を確かめた計画へ直す。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。題材の派手さや道具の価格で選ぶ場合、身近な観察で答えられる問いへ絞る。既に研究が完成したことを前提にしない。

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。危険な薬品・火・家庭用電源の実験を課題にせず、動植物の採集や立入規制を守る。費用や保護者の支援を前提にしない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○既習の記録から疑問を選ぶ。 ○答えられる問いへ絞る。	知①・知②（活動の観察・記録）
第2次	2 （本時を含む）	○安全な方法と記録欄を計画する。 ○計画を点検して修正する。 ○記録を根拠に、中心の問いへの自分の説明を確かめ直す。	思①（記録を用いた説明）・態①（説明を見直す過程）

AI三重

6 本時の指導（2／2（配当案））

（１）本時の目標

自分の疑問に合う安全な調べ方を選び、何を記録すれば問いに答えられるかを説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○本時で使う記録を見て、問い「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」を確かめる。 【めあて】問いに合う調べ方と記録を考え、安全な研究計画に直そう。 ○一人で今の考えと、確かめたい点を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・この記録を使って、自分の考えを説明したい。 ・前の考えと合わないところがある。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・危険な薬品・火・家庭用電源の実験を課題にせず、動植物の採集や立入規制を守る。費用や保護者の支援を前提にしない。
展開 （ 分）	○この時間に扱う共通の資料や記録を使って、次の活動を行う。既習の記録から疑問を選び、複数の結果に合う説明を使って確かめる方法を紙に書く。使う道具・観察場所・記録することを対応させ、教師が安全を確かめた計画へ直す。 ○「どの部分を比べて、そう考えましたか」 ○根拠の箇所を指し示して説明し、相手の説明との違いを聞く。 ○資料から分かることと、まだ分からないことを分けて書き直す。 〈予想される児童の反応〉 ・この問いなら、身近な物を観察して調べられそうだ。 ・日付と条件を残さないと、後で比べられない。	・題材の派手さや道具の価格で選ぶ場合、身近な観察で答えられる問いへ絞る。既に研究が完成したことを前提にしない。 ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 自分の疑問と調べる方法、記録する内容を対応させ、安全性と確かめやすさを理由に計画を見直している。（研究計画と修正理由から見取る。）
まとめ （ 分）	○問い・方法・記録・安全の対応を研究計画で説明する。 【まとめ】研究は、問いに合う方法と記録を決め、安全に確かめられる計画にして始める。 ○修正した点と、教師に確認することを残す。 〈予想される児童の反応〉 ・最初の説明に、根拠にした記録を書き足せた。 ・まだ確かめていないところは、次の問いとして残した。	・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

(3) 板書計画

上段に問い「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」。左に児童の最初の考え、中央に根拠として選んだ記録や資料、右に確かめ直した説明を置く。記録には対象・条件・時期を添え、同じ観点で比較する。下段のまとめは「既習の燃焼前後の空気や動植物の体の働きなどを手掛かりに、問いと方法と記録が対応した研究計画を立てられる」。確認できた事実と残った疑問を別欄にし、実測していないことを書き足さない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

